

新宿会館隣接地を有効に活用し、 駐在所移転と公園化を



新宿会館

住民の声を生かした整備計画を

昭和四十一年に建築された新宿会館（町内会館&逗子消防団第八分団）は、十年前、シャッターが開かなくなりしました。また、会館二階から子どもたちの転落事故や、急な階段のため、高齢者が二階に上がれず、行事がおこなえないなど、十年前から新築・移転は住民の切実な願いでした。町内会の各団体を中心とした準備委員会の方々が、用地の確保、会館の設計に取り組み、地元住民の手づくりの会館として、〇四年十一月にオープンしました。小規模の地域活動センターとしては、全国初の指定管理者制度の導入で、現在、地域の活動拠点として利用されています。

多くの地域のみなさんの願いだっ た会館建て替え

しかし、この建て替え計画に対して、設計の内容やデザイン等に対してクレームが入り、計画の白紙を含む見直しを求める二つの陳情が議会に提出されました。住民の意見に對立が生じたことは大変残念に思います。しかし、会館の早期建て替えは、多くの地域のみなさんの願いであり、建設後の会館活用に、夢を持って取

り組まれたものです。

そうした経過を受け止め、日本共産党はこれらの陳情に反対の意思を示しました（共産党を除く議員は継続）

会館前の空地については、活用を求め声や、空地を解放することから、不審者や不特定多数の溜まり場のなるのではないかと不安の声もあり、防犯対策を合わせた整備として、新宿三丁目の駐在所の移転を望む声が上がっています。

会館前の空き地をポケットパーク としての活用を

この空地はシンボルロード検討会の報告書で、新宿会館建て替えと合わせて、ポケットパークとして



て整備する計画となっていました。行政は棚上げし、検討すらされていません。（シンボルロードは十八年度事業凍結）昨年十二月議会では駐在所移転と公園化、海岸利用の自転車駐輪場スペースなどの実現を求め、市長は検討を約束しました。

会館と広場一体の活用で、地域のみなさんの活動がさらに広がるように、みなさんと一緒に取り組んでまいります。



市議員

はしづめ明子

略 歴

1957年生まれ、逗子市新宿で育つ。逗子小、清泉女学院、東京デザイナー学院卒業/神奈川みなみ医療生協で医療、福祉、介護の現場に19年勤務、ケアマネージャー。02年市議初当選/現在、総務常任委員、都市計審議会委員、総合的病院特別委員会副委員長/家族は夫と二女/桜山2-1-54



発行 日本共産党三浦半島地区
委員会逗子事務所
住所 逗子市沼間2-15-4
電話 046-871-1321

小児医療費 助成制度

(04年3月議会に条例改定を議員提案)

四歳未満から就学前までに 引き上げを実現。

引き続き小学校三年生までの拡大を要求

二〇〇四年十月から小児医療費（通院）が就学前までに引き上げられました。小児医療費助成制度の拡充については、日本共産党市議団が一般質問で再三にわたり、市長に実現を迫ってきましたが、市の積極的な姿勢が見られないことから、条例改定を準備し、他会

派に呼びかけ、超党派で提案をおこなってきたものが実ったものです。

共産党は、引き続き所得制限撤廃を求め、医療費助成についても小学校3年生までの年齢引き上げを求めています。



深夜花火 について

静かな逗子海岸を願って ひきつづき がんばります。

夏場を中心に、年間を通して、深夜花火による騒音の苦情が年々増加しています。しかし、これを禁止する法的根拠がなく、市も苦慮している状態です。このため他会派共同で条例提案（「逗子海岸の深夜花火の

（反対は「次世代」）審議とされ、3月3日に審議未了で廃案となってしまうました。

禁止に関する条例案）を05年3月議会で行ないました。しかし、結果は、4回の定例会で、すべて継続

↓廃案となりました。継続理由は、主に①海・浜ルールブック作成の状況を見てからでも遅くない。②年間を通した条例であり、慎重であるべき、というものです。すでに鎌倉市や茅ヶ崎市、三浦市などでは、禁止条例を制定し、具体的な指導ができるようになってい

